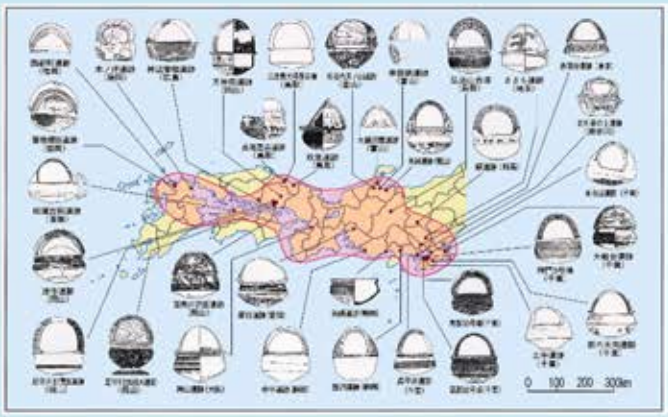
謎の手焙形土器

弥生土器の中に、浅鉢状の体部に覆いを被せた「手焙形土器」と呼ばれる土器があります。この土器は弥生時代後期～古墳時代前期の短い期間にごく少数使われていた謎の多い器です。

手焙形土器の覆いの結合方法は、口縁を残すA類と、覆いと口縁が一体化するB類に大別できます。さらに口縁部の形状も「く」字状口縁(I類)と受口状口縁(II類)の2タイプが見られますが、出現期の手焙形土器はII類が大多数を占め、AII類は大和、河内の大和川水系の流域と伊賀(三重県)、BII類は近江の湖南地域から淀川水系に沿って山城・摂津を中心に出土していて、やがてB2類が占めるようになります。

服部遺跡出土の手焙形土器



手焙形土器の分布
(守山市誌考古編掲載図を一部改編のうえ掲載 森三紀作図)

出現期のB2類は野洲川流域でしか見つかっていないことから、受口状口縁甕と同じように、野洲川流域で誕生し、近江はもとより、全国にその分布範囲を広げていったと考えることができます。

いのりとまつりの道具

弥生時代には、稲作文化とともに、新たな信仰ももたらされました。稲作農耕を生業とすることで、人々は収穫の祈りと感謝を銅鐸のまつりに託したほか、祖先の霊や稲に宿る神である穀霊をまつる道具なども残しています。

下之郷遺跡出土の木偶・鳥形木製品

下之郷遺跡では、木偶と鳥形木製品や、ココヤシの実を加工して、人の顔を表現したココヤシ容器が出土しています。木偶とは、目や口、肩などを表現した木の人形で、祖先の霊魂である祖霊神を表現していて、祖霊信仰の祭祀に用いられたと考えられています。集落周辺や方形周溝墓からの出土例が多く、前者は悪霊の侵入を防ぐため、後者は墓に差し立てて葬られた人の霊を弔う祭祀に使われたと考えられます。

下之郷遺跡出土のココヤシ容器

鳥形木製品も形代の一種で、鳥を象っています。東南アジアの稲作地帯では、「空を飛ぶことができる渡り鳥が運んできた穀霊が稲籾に宿り、一年の多穫を期待する。」という鳥への信仰が現在でも広くみられることから、弥生時代にも、このような穀霊信仰が稲作文化のひとつとして伝わってきたものと考えられます。

また、弥生時代後期の竪櫛が服部遺跡から見つかっています。櫛歯はなくなっていますが、シンメトリックな透かし彫りと巴文を装飾し、色鮮やかに赤く彩色されています。竪櫛を装飾する巴文は古代中国にも見られることから、稲作文化とともに持ち込まれた後、日本列島で呪術的な意味を持って使われたのでしょう。
このような竪櫛は全国的にも希少で、おそらく非日常的なまつりなどに、特別な女性(シャーマン)がまつりのアイテムとして髷に飾りつけたものと考えられます。

服部遺跡 竪櫛出土状況

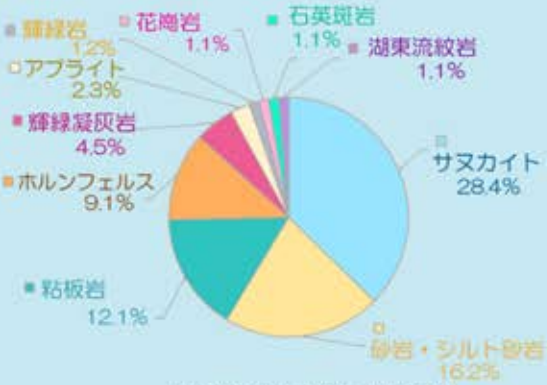
竪櫛

弥生社会を支えた石器

弥生時代前期に稲作文化のパッケージとして大陸系磨製石器が伝わってきました。大陸系磨製石器とは、稲の穂摘みをする収穫具である石包丁や磨製石斧、有茎の磨製石鏃、磨製石剣のことを指します。その名のとおり、全面を丁寧に磨き上げてつくられた石器です。稲作はもとより、住居や農具づくりに欠かせないツールとして、金属器の普及までの間、木製農具とともに農耕社会を支えました。

中島遺跡出土の磨製石斧

しかし、野洲川流域で出土する磨製石器は磨いて仕上げた刃先以外は、敲いて整形しただけのものや自然の石肌が残るものが多く見受けられます。北部九州で出土する本来の大陸系磨製石器と比較すると、かなり形態に差があることがわかります。石材にしても、身近な野洲川流域で採取できる粘板岩や砂岩などを用いています。稲作文化のひとつとして受容された大陸系磨製石器は、幅広い種類の中から必要な石器だけを取捨選択し、身近に入手できる石材で機能面を重視した石器作りを行なった弥生人の柔軟性と合理性を知ることができます。



中島遺跡出土石器の石材内訳

金属器文化の到来

世界史的には、段階的に新石器時代、青銅器時代、鉄器時代の幕が開きますが、日本列島では、弥生時代前期末ないしは中期初めごろに青銅器と鉄器が相次いで使われ始めます。

そして、青銅器は儀器や銅鐸などの祭器に、実用の利器や武器は鉄器と使い分けられるようになります。

鉄製の農工具は、水田開発や精巧な木製品加工などの分野で、石製・木製農工具にはないパフォーマンスを発揮します。

銅鐸もまた、北部九州から伝わり近畿地方の祭りの道

服部遺跡出土の銅鏃

下之郷遺跡出土銅鏃鋳型・服部遺跡出土銅戈鋳型・新庄銅鐸

下之郷遺跡出土銅剣（中）・復元品（左）服部遺跡出土土製品

青銅器は、弥生時代中期の拠点集落であった服部遺跡や下之郷遺跡で鋳型が出土していて、生産の痕跡が認められます。

しかし、鉄製農工具の普及は、石器の多くが姿を消す弥生時代後期を待たなければなりません。伊勢遺跡に大型建物が出現したり、竪穴住居が円形から方形に変わったり、灌漑を伴う標高100メートルを超える土地の水田開発の背景には、鉄製農耕具が限りないパフォーマンスを発揮したことでしょう。

守山市立埋蔵文化財センター
〒524-0212　守山市服部町 2250 番地
TEL&Fax　077（585）4397
mail：maizobunkazai@city.moriyama.lg.jp

開館時間：午前９時から午後４時まで
休 館 日：火曜日・祝日の翌日・年末年始
入 館 料：無料
HP：http://moriyama-bunkazai.org/center/